

令和5年1月11日

担当課：人づくり・県民生活部
文化振興課

直通：092-643-3382

内線：2832

担当：松尾、山田

第30回福岡県文化賞受賞者を決定しました

- 福岡県では、県民の皆さんの幅広い文化活動を促進し、本県文化の向上・発展を図るため、文化振興に顕著な功績のあった個人や団体に「福岡県文化賞」を贈っています。
- 平成5年度の創設以来、これまで117の個人・団体を表彰してきました。
- このたび、市町村、文化関係団体、報道機関等から推薦があった22の個人・団体の中から、外部有識者で構成される「福岡県文化賞選考委員会」の選考を経て、
 - ・ 創造部門 ゆあさ まさあき 湯浅 政明 さん（アニメーション監督）
 - ・ 社会部門 こうえきざいだんほうじん ふくおかぶんかざいだん 公益財団法人 福岡文化財団（芸術文化振興）
 - ・ 奨励部門 なかむら ひろみね 中村 弘峰 さん（人形師）に、第30回福岡県文化賞を贈呈することを決定しました。
- 今回の文化賞贈呈式は、令和5年3月18日（土）にアクロス福岡で行う予定としています。

1 受賞者の概要 別紙のとおり

2 福岡県文化賞について

- ・趣 旨：芸術文化、地域文化、伝統文化、生活文化など様々な視点から県民の文化活動を多角的にとらえ、特色ある文化活動により文化の振興に顕著な功績のあった個人や団体を表彰し、もって県民の多様な文化活動を奨励し、本県文化の向上・発展に資すること
- ・表彰部門：3部門（創造部門、社会部門、奨励部門）

※ なお、昨年度の贈呈式の様子や受賞者へのインタビューを記録した記念動画を制作しております。ふくおかインターネットテレビに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

【動画掲載場所】

ふくおかインターネットテレビ（YouTube チャンネル）

URL：<https://www.youtube.com/user/fukuokaitv/featured>

〔創造部門〕

1. 氏名 湯浅 政明 (アニメーション監督)
2. 年齢 57歳 ※R5.1.11現在
3. 住所 東京都 (出身：福岡県)



【経歴及び選考理由】

九州産業大学芸術学部芸術学科卒業後、昭和62年にアニメ制作会社へ入社し、平成2年から放送を開始した「ちびまる子ちゃん」の本編原画に加え、初代OP「ゆめいっぱい」、初代ED「おどるポンポコリン」の作画を担当する。その後フリーランスとなった氏は、平成4年より「クレヨンしんちゃん」の制作に作画監督・原画として参加。平成5年から始まった「劇場版クレヨンしんちゃんシリーズ」には、第1作目以降、セットデザイン・原画として関わり続けてきた。

氏の長編アニメーション監督デビューは平成16年公開の映画「マインド・ゲーム」で、同作は「第8回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞」受賞を皮切りに、国内外の数々の賞を獲得。以降の監督作「カイバ」、「四畳半神話体系」、「ピンポン THE ANIMATION」等でも国内外の多くの賞を受賞するなど、氏は監督として国内外で高い評価を得ている。

平成29年4月には映画「夜は短し歩けよ乙女」を、5月には自身初となるオリジナル長編映画「夜明けを告げるルーのうた」を全国連続公開。「夜は短し歩けよ乙女」は、「オタワ国際アニメーション映画祭長編部門」で日本の作品では初となる長編部門グランプリを受賞、さらに「夜明けを告げるルーのうた」は、「第41回アヌシー国際アニメーション映画祭長編部門クリスタル賞」を受賞。長編部門最高賞であるクリスタル賞受賞は、宮崎駿監督、高畑勲監督に次ぐ日本人史上3人目の快挙となった。同作は、「第21回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞」も受賞。氏の同賞受賞は3度目で、賞の創設以来、初めての快挙であり、同年、「文化庁長官表彰（国際芸術部門）」を受賞している。

最近では、令和2年にNHKで放送されたテレビアニメ「映像研には手を出すな！」で監督を務め、「第24回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞」を受賞。氏の監督作としては4作目の大賞受賞となるとともに、氏はテレビアニメで2度大賞を受賞した最初の監督となった。このほか、令和4年に一般公開された長編アニメーション映画「犬王」が「ファンタジア国際映画祭アニメーション部門（今敏賞）長編賞」などを受賞している。

このように、氏の優れた業績は、福岡県にとどまらず、国内外におけるアニメーション界の向上・発展に大きく貢献している。

【主な監督作品と受賞歴】

■アニメーション映画

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 「マインド・ゲーム」(平成16年) | 第8回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門 大賞 等 |
| 「夜は短し歩けよ乙女」(平成29年) | 第41回日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞 等 |
| 「夜明けを告げるルーのうた」(平成29年) | 第41回アヌシー国際アニメーション映画祭長編部門クリスタル賞 等 |
| 「きみと、波にのれたら」(令和元年) | 上海国際映画祭金爵賞アニメーション最優秀作品賞 等 |
| 「犬王」(令和4年) | ファンタジア国際映画祭アニメーション部門（今敏賞）長編賞 等 |

■テレビアニメ

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 「カイバ」(平成20年) | 第12回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞 |
| 「四畳半神話体系」(平成22年) | 第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞 等 |
| 「ピンポンTHE ANIMATION」(平成26年) | 第14回東京アニメアワードテレビ部門グランプリ |
| 「映像研には手を出すな！」(令和2年) 他 | 第24回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞 等 |

■褒章

- 紫綬褒章 (令和3年)

(参考) 創造部門：個性的・創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上・発展に貢献したのもの

〔社 会 部 門〕

1. 団 体 名 公益財団法人 福岡文化財団
2. 分 野 芸術文化振興
3. 設 立 年 昭和60年（37年目）※R5.1.11現在
4. 所 在 地 福岡市博多区



【経歴及び選考理由】

昭和60年に福岡相互銀行（現 西日本シティ銀行）の創立60周年を記念し、設立。

美術、音楽、演劇等芸術を通して文化の向上を図り、より豊かな地域社会づくりに寄与することを目的に掲げ、今日まで優れた社会活動を行ってきた。

昭和61年には、福岡県で唯一、常設の弦楽四重奏団となる「福岡ハイドン弦楽四重奏団」の結成を後援し、同四重奏団による「プロムナードコンサート」を開始。福岡相互銀行（現 西日本シティ銀行）のエントランスホールにて毎月1回、12時から13時まで開催される同楽団の定期演奏会は、お昼休みのコンサートとして地域の方々に親しまれ、平成31年4月開催で400回を数えた。令和元年に入ってから「福岡ルネッサンス NCBプロムナードコンサート」にかたちを変え、毎月、福岡にゆかりある様々なジャンルの音楽家の演奏を県民に届けている。

また、年末の福岡・博多の街が音楽で活気づくようにと、平成28年から「NCB音楽祭」（共催：西日本フィナンシャルホールディングス、西日本シティ銀行）を開催し、鑑賞無料で多くの人々を招待するなど、音楽文化の普及に尽力している。

音楽分野以外でも、平成19年度から平成26年度にかけて、能や狂言、人形浄瑠璃など様々なジャンルの日本の伝統芸能を紹介する事業「日本伝統文化塾」を実施し、多くの方々が日本の伝統芸能文化に気軽に触れることができる機会を提供。平成27年度からは「日本の神様と舞い踊ろう」をテーマに、福岡各地の神舞や神楽を鑑賞することができる事業を行い、地域文化の伝承と発展に寄与している。

こうした活動は、これまで福岡県ではあまり見られなかった積極的で先進的な活動であり、当財団は今日広く知られるようになった企業メセナの先駆的な存在といえる。

財団が主催する上記の事業のほかにも、文化の向上を通してより豊かな地域社会づくりに寄与することを目的に、福岡県内で実施される文化・芸術活動を対象にした助成事業を行うなど、当財団は、本県における文化・芸術の普及や躍進、進展に大きく寄与している。



NCB 音楽祭



日本の神様と舞い踊ろう

（参考）社会部門：地域の特性を活かした活動を行い、個性豊かで潤いのある地域社会づくりに功績があったもの又は国際交流、地域間交流など広範な文化交流活動を行い、相互理解、文化交流の発展に貢献したもの

〔奨励部門〕

1. 氏名 なかむら ひろみね 中村 弘峰 (人形師)
2. 年齢 36歳 ※R5.1.11現在
3. 住所 福岡市



【経歴及び選考理由】

大正6年創業の老舗博多人形「中村人形」の4代目人形師。

平成23年、東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了後、「中村人形」3代目人形師である父、中村信喬氏（第14回（平成18年）福岡県文化賞創造部門受賞者）に師事。伝統の技を習得しながら、太宰府天満宮干支置物の制作や博多祇園山笠土居流の昇山制作などに携わり、着実に技を磨いている。

平成25年には日本伝統工芸展に初入選し、日本工芸会新人賞を受賞。その後、平成26年、平成27年と連続して西部伝統工芸展に入選。平成28年には、世界的な工芸家たちが集まった公募展「第3回金沢・世界工芸コンペティション」にて優秀賞を受賞している。毎年継続して作品を制作・発表しつづけて数々の賞に輝いており、本県においても、「九州芸文館トリエンナーレ2019」にてアーチェリー選手を模した作品「この矢はづさせ給うな」を出展し、大賞を受賞している。

氏の作品は、「中村人形」としての伝統を受け継ぎながら、父・信喬氏とは異なる独自性を発揮している。特に野球選手などの「アスリートシリーズ」は、伝統的な日本人形のあり方をアップデートした斬新な作品として、高い評価を受けている。

氏は「もしも江戸時代の腕の良い人形師が現代にタイムスリップしてきたら」というコンセプトの中で作品に取り組んでおり、「人形は『人』の祈りを『形』にしたもの」という解釈の中で、数々の魅力あふれる作品を生み出し、新たな挑戦を続けている。

このような氏の活動は、本県を代表的する伝統的工芸品である博多人形の普及・継承に大きく貢献するもので、今後の活躍が大いに期待される。



作品名 「礼砲」(左)
「不動如山」(右)



作品名 「この矢はづさせ給ふな」

【主な受賞歴】

- 第60回日本伝統工芸展 初入選 新人賞 (平成25年)
- 第49回西部伝統工芸展 初入選 日本工芸会賞 (平成26年)
- 第50回西部伝統工芸展 福岡市長賞 (平成27年)
- 第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ コンペティション部門 優秀賞 (平成28年)
- 伝統工芸創作人形展 in 金沢 中村記念美術館賞 (平成29年)
- 第54回西部伝統工芸展 日本工芸会賞 (令和元年)
- 第55回西部伝統工芸展 日本工芸会賞 (令和2年)
- 九州芸文館トリエンナーレ大賞 (令和2年)

(参考) 奨励部門：個性的・創造的な創作活動を行い、かつ、将来一層の活躍が期待されるもの。

福岡県文化賞受賞者一覧

回	年	創造部門	交流部門	社会部門	奨励部門	特別部門
1	H5	画家 野見山 暁治	ペシャワール会	嘉徳劇場 代表 伊藤 英子	篆刻書道家 師村 妙石	財団法人 九州交響楽団
2	H6	作家 森崎 和江	北九州国際音楽祭 音楽 監督 新井 淑子	幸若舞保存会	作家 杉本 章子	葦書房 有限会社
3	H7	RKB毎日放送 エグゼクティブプロデューサー 木村 栄文	アジア美術家連盟 日本委員会	遠賀川に鮭を呼び戻す 会	作家・精神科医 帯木 蓬生	劇団 青春座
4	H8	画家 菊畑 茂久馬	福岡県 子ども劇場連絡会	筑豊青少年交響楽団 代表 伊藤 光	俳優 中西 和久	声楽家 渡辺 葉子
5	H9	建築家 葉 祥栄	クレイヤーアーティスト 高鶴 元	北九州交響楽団	画家 井上 敬一	九州交響楽団 音楽監督 石丸 寛
6	H10	作家 村田 喜代子	飯塚新人音楽 コンクールを育てる会	漂着物研究家 石井 忠	鋳金家 遠藤 喜代志	グラフィックデザイナー 松永 真
7	H11	作家 白石 一郎	筑後吉井の小さな美術館め ぐり実行委員会	田川合唱団 代表 田中凡平	造形美術家 江上 計太	漫画家 松本 零士
8	H12	書家 松永 隆	社団法人 福岡県美術協会	福岡県地方史研究会 古文書を読む会	陶芸家 福島 善三	文芸評論家 星加 輝光
9	H13	作家 夏樹 静子 CGアーティスト 河口 洋一郎	特定非営利活動法人 アジア女性センター	日本史研究家 川添 昭二	(該当者なし)	ヴァイオリニスト 篠崎 史紀
10	H14	作家 高樹のぶ子	彫刻家 外尾 悦郎	田川郷土研究会	映画監督 青山 真治	写真家 石川 賢治
11	H15	作家 佐木 隆三	胡弓奏者 趙 国良	筑豊博物研究会	久留米絃作家 松枝 哲哉	財団法人 末永文化振興財団
12	H16	写真家・随筆家 藤原 新也	雅楽演奏団体 筑紫 楽所	博多史・郷土女性史研究 家 武野 要子	フルート演奏家 瀬尾 和紀	文学批評家 故・花田 俊典
13	H17	画家・版画家 川原田 徹	劇団 道化	音楽文化団体 プリンス 吹奏楽団久留米 口演童話家 本村 義雄	(該当者なし)	彫刻家 豊福 知徳
14	H18	博多人形師 中村 信喬	国際化コーディネータ ニック・サーズ	民俗研究家 佐々木 哲哉	ヴァイオリニスト 南 紫音	博多織作家 小川規三郎
15	H19	声楽家 蓮井 求道	指揮者 フォルカー・レニック	出版社 有限会社海鳥社	劇団主宰 大塚ムネト	漫画家 長谷川 法世
16	H20	陶芸家・詩人 山本 源太		十八世紀音楽祭協会	建築家 松岡 恭子	
17	H21	キルト作家 山口 怜子		郷土史研究家 深町 純亮	写真家 百瀬 俊哉	
18	H22	作家 葉室 麟		庶民生活史研究家 堀切 辰一	能楽師和泉流狂言方 野村 万禄	
19	H23	作家 平野 啓一郎		日本文学研究者 前田 淑	映像ディレクター 江口 カン	
20	H24	染織家 築城 則子		福岡県立大学附属研究所生涯福祉研 究センター・山本作兵衛さんを(読む) 会	作家 西村 健	
21	H25	ピアニスト 占部 由美子		NPO法人ロシナンテス理事長 川原 尚行	精華女子高等学校 吹奏楽部	
22	H26	染織家 釜我 敏子		特定非営利活動法人ま る	アクロス弦楽合奏団	
23	H27	作家 安部 龍太郎		北九州 フィルム・コミッション	デジタルアーティスト/九州大学大学院芸術 工学研究院学術研究員 工藤 達郎	
24	H28	美術家 田部 光子		福岡県立図書館 音訳の会	博多人形師 溝口 堂央	
25	H29	写真家 榎 晃弘		BOOKUOKA 実行委員会	和楽団ジャパンマー バス	
26	H30	作家 東山 彰良 ゲームクリエイター 株式会社レベルファイブ代表取締役/ CEO 日野 晃博	漫才師 博多華丸・大吉	(該当者なし)		
27	R1	漫画家 うえやまとち	中洲ジャズ実行委員会	キャラクターデザイナー 谷口 亮		
28	R2	指揮者 小泉 和裕	アーツスペース貌	作家 古川 真人		
29	R3	博多人形師 川崎 幸子	山里の廃校利用美術館 共星の里 黒川INN美術館	クリエイター 中村 俊介		

※H20年度から5部門のうち交流部門と特別部門を整理し3部門に統合した

第15期福岡県文化賞選考委員会委員
 (任期:令和3年10月4日～令和5年3月31日)

15名(50音順、敬称略)

氏名	役職	就任期間	摘要
石村 一枝	株式会社石村萬盛堂	1期目	
宇田川 宣人	福岡県文化団体連合会 理事長	5期目	
吉柳 佳代子	九州大谷短期大学幼児教育学科 准教授	1期目	
小山田 英弘	北九州市立大学国際環境工学部 教授	2期目	
谷 正和	九州大学大学院 主幹教授	2期目	委員長
塚崎 謙太郎	株式会社西日本新聞社 暮らし文化部長	1期目	
中村 共子	フリーランサー(美術・伝統芸能等)	2期目	
西田 紘子	九州大学大学院芸術工学研究院 准教授	2期目	
東山 彰良	作家	1期目	
深澤 功	公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹	3期目	
福島 善三	陶芸家	2期目	
堀 英明	株式会社ピクニック 取締役プロデューサー	1期目	
宮川 美佐子	福岡女子大学国際文理学部 教授	2期目	
吉中 美保子	西日本鉄道株式会社天神みらい戦略部 部長	1期目	
ラワンチャイケン寿子	福岡アジア美術館 学芸課長	2期目	副委員長